

令和元年度 食品検査状況

1 残留農薬



令和元年度は、野菜や果実、畜肉等の農畜産物100検体（国産品80、輸入品20）について延べ9,660項目の残留農薬検査を行いました。検査の結果、100検体中42検体（検出率42%）から延べ102農薬が検出されましたが、食品衛生法に定められている残留基準を超えたものはありませんでした。検出した農薬のほとんどは基準値の1/10から1/100の低い値でした。

残留農薬検査結果の概要

	国内産		輸入品		全体	
	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数
野菜	30	3,600	10	1,200	40	4,800
果実	20	2,400	10	1,200	30	3,600
玄米	10	1,200	-	-	10	1,200
畜肉	20	60	-	-	20	60
合計	80	7,260	20	2,400	100	9,660
農薬検出数	29	69	13	33	42	102
検出率(%)	36%	1%	65%	1%	42%	1%
残留基準超過数	0	0	0	0	0	0

2 放射性物質



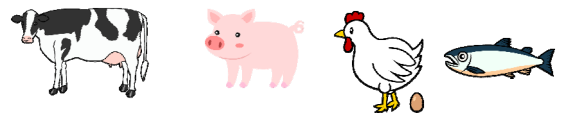
令和元年度は、流通品の一般食品、牛乳及び乳児用食品、飲用水の202検体、および野生の山菜ときこの69検体について放射性物質（放射性セシウム）の検査を行いました。その結果、流通品については202検体中2検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。また、野生山菜（4～5月実施）については54検体中13検体から、野生きのこ（8～10月実施）については15検体中5検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

流通品の検査結果

	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値(Bq/kg)
一般食品	184	1	1%	0	100
牛乳及び乳児用食品	8	1	13%	0	50
飲用水	10	0	0%	0	10
計	202	2	1%	0	-

野生山菜・きのこの検査結果

	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値(Bq/kg)
山菜	54	13	24%	0	100
きのこ	15	5	33%	0	
計	69	18	26%	0	-



動物用医薬品の検査結果

	品名	検体数	検査項目数	検査結果
県内産	さけ目	2	90	基準超過 なし
	鶏卵	9	396	
輸入	さけ目	4	180	
	その他魚類	1	44	
	牛肉	2	86	
	豚肉	4	172	
合計		22	968	

3 動物用医薬品

令和元年度は、県内産さけ目(2検体)、県内産鶏卵(9検体)、輸入魚類(5検体)、輸入肉類(牛肉2検体、豚肉4検体)について延べ968項目の動物用医薬品の検査を実施しましたが、食品衛生法に定められた基準値を超えたものはありませんでした。

4 食品添加物

令和元年度は、保存料 13 検体、酸化防止剤 9 検体、着色料 9 検体、甘味料 9 検体について、検査を行いました。その結果、使用基準に違反した食品はありませんでした。

食品添加物検査の概要

種類	検体数	検査項目	検査結果
保存料	13	安息香酸、ソルビン酸、 パラオキシ安息香酸エステル類	使用基準違反なし
酸化防止剤	9	tert-ブチルヒドロキノン	
着色料	9	食用赤色2,3,40,102,104,105,106号 黄色4,5号、緑色3号、青色1,2号	
甘味料	9	サイクラミン酸	
合計	40		



5 遺伝子組換え食品

令和元年度は、大豆粒（4 検体）を対象に検査を行いました。その結果、安全性審査済み組換え大豆 RRS が検出された食品はなく、表示が適正に行われていることが確認されました。

遺伝子組換え食品（大豆粒）の検査結果

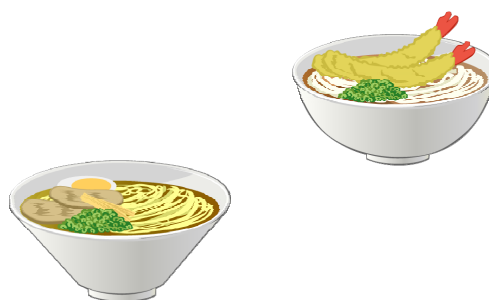
品名	検体数	検査項目	結果
大豆	4	安全性審査済の組換え大豆のRRS検査	不検出

6 アレルギー物質

令和元年度は、「そば」混入のおそれのある小麦粉食品 6 検体及び「小麦」混入のおそれのある米粉食品等 4 検体（いずれも県内製造）の計 10 検体について、抗原抗体のキットによる定性試験を実施しました。その結果、そば、小麦とも陽性反応を示すものはなく、表示違反の食品はありませんでした。

アレルギー物質の検査結果（そば）

品名	検体数	そば陽性
中華めん	3	0
ゆでうどん	1	0
乾麺	2	0
冷めん	0	0
計	6	0



アレルギー物質の検査結果（小麦）

品名	検体数	小麦陽性
米粉めん	1	0
米粉	1	0
菓子	2	0
計	4	0



作成：岩手県環境保健研究センター 衛生科学部
図：illust image (<https://illustimage.com/>)